

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ  
川崎市外国人市民代表者会議  
(第12期 第1年 第4回 第1日)  
ぎじろく  
議事録

1 日時 2019(平成31)年1月20日(日) 午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 20人

アニータ リシケシュ、アリ ファズラット シャローン、大越 ミュートン  
トミオ、金 海花、ゴタメ アディカリ アニタ、許 成龍、蔣 香梅、  
シロコラデュク イリヤ、鈴木 ミリアム、スタント イルワン、崔 敬心、  
チョ チョ カイン、寺田 ヘザー、バテネフ アルチョム、ポール ウツザル  
クマル、ボソ ロドリゲス ミゲル アンヘル、前田 喜与美、ラサル  
ジュリエン、劉 愛玲、ロペス ハイロ

(2) 事務局

浅沼 担当課長、豊田 担当係長、中野 担当係長、関口 主任、日下部  
職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 5人

5 会議次第(公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

## 【全体会】

スタント委員長「新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願  
いします。それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2018年度第  
4回第1日を開催する。今日はウラコワ委員、ウル委員、児玉委員、トラン  
委員、ロマンダ委員から欠席の連絡が届いている。まず、今日の日程と配布  
資料の確認について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局豊田担当係長が説明)

スタント委員長「次に、前回会議のまとめについて、事務局から説明をお願いします  
る。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明)

スタント委員長「何か質問はあるか。(なし) それでは、議事に入る。まずは、  
代表者の辞任と補充についてだ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明)

スタント委員長「何か質問はあるか。それでは、説明にあったように、残りの期間も  
短いことから、補充はしないということにしたいがよいか。補充をしないこ  
とに賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成) それでは、補充しない  
ということで決定だ。次に、提言の取組状況についてだ。事務局から報告を  
お願いします。」

(事務局日下部職員が資料3に基づき報告)

スタント委員長「何か質問はあるか。(なし) では、次の議事に移る。次は、2  
018年度の年次報告書について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局日下部職員が資料4に基づき説明)

スタント委員長「何か質問はあるか。(なし) 次は、オープン会議の振り返りに  
ついてだ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料5に基づき説明)

スタント委員長「何か質問や意見はあるか。」

アリ委員「運営面はととてもよかったと思う。参加者は自分が思っていたよりも少なか  
った。自分の関心のあるテーマについて、あまり話せなかったのが残念だっ  
た。」

スタント委員長「高齢者向けの相談や悩みというテーマも出てきたが、具体的な問題  
まではあがらなかったなので、審議テーマにくわえるまでにはならないかと思っ  
ている。」

崔部会長「私のグループでは、日本人のひとたちがどこに情報を届けたらよいのかわからないという意見があり、外国人の側も積極的に地域活動に参加したり、情報を発信したりしていく必要があると思った。それと、当日に提言の取組状況の評価について質問があったが、答えられなかったので、この会議の仕組みや歴史についてもっと勉強する必要があると感じた。」

アリ委員「私たちももっといろいろな声を聴く機会をつくった方がよいと思った。」

ロベス委員「参加者からの意見だが、神奈川県で異文化に関する役所の職員研修があるそうなのだが、参加者が少ないそうだ。もっと研修を受ける人が増えれば、多くの課題が解決されるかもしれない。」

ボソ委員「外国人だけで集まって話していると、どうしてもこうして欲しい、ああやって欲しいという意見が多くなる。けれど、同じ地域に住んでいる日本人の立場からの意見も聞くことはとても重要だと思う。日本人のなかにも、私たちのことを考えてくれている人はたくさんいる。」

寺田委員「同じ意見だ。そういう意味では、オープン会議のような機会がもう少しあってもよいのではないか。」

崔部会長「代表者会議のメンバーで、会議以外の活動もしたらどうだろうか。」

アニータ委員「オープン会議の広報は、どのくらいの範囲でしたのか。」

事務局日下部職員「市のホームページ、区役所や市民館でポスターの掲示、チラシの配架、あとは他都市の外国人会議、かわさきFM、報道機関などだ。」

アニータ委員「私たちももっと地域で広報をした方がよいと思った。」

スタント委員長「それでは、オープン会議の振り返りはここまでとする。移動・休憩をはさんで部会審議をお願いする。全体会の再開は16時30分からとする。」

### 【情報・広報部会】

崔部会長「それでは、部会を始めたい。まずは、前回会議の確認について事務局からお願いする。」

(事務局日下部職員が資料1に基づき説明)

崔部会長「何か質問はあるか。(なし)それでは、今日のテーマは企業や日本語学校等を通じた市の取組の広報・周知についてだ。まずは事務局から説明をお願いする。」

(事務局 日下部職員が資料 6 - 1 に基づき説明)

崔部会長「何か質問はあるか。(なし)では、審議に入りたい。何か意見はあるか。」

前田副委員長「民間企業は、幅が広すぎて焦点が絞れない。日本語学校は4校ということなので、具体的に何かできるかもしれない。」

アリ委員「問題は、川崎市が知って欲しい情報に焦点をあてるのがよいと思う。」

崔部会長「資料の6ページを見ると、調査結果のところの『日常生活に必要な情報の入手経路と日本語能力の関係』で、日本語が話せない人は『知り合いから』が76.8%というのと、日本語が話せる人はインターネットで情報を確認ができていてということを考えると、日本語学校でもそれなりに生徒への対応はできていると思う。」

ポール委員「資料を見ると、市はたくさんの取組をやっていることがわかる。前回、ウェルカムセットをちゃんと渡しているのか、ということがあって、先日、友達が川崎市に引っ越してきたのだが、もらっていないそうだ。職員で知らない人もいようだ。」

ロベス委員「区役所が忙しくて対応できていないということもあると思う。外国人のことで以外にもすべきことがたくさんある。優先順位の問題で、それは川崎市が本当に国際的なまちになりたいかどうか、ということに関わっていると思う。」

鈴木委員「企業を通じた広報は難しいと思う。日本語学校は何かできるかもしれない。市からのメールの配信はどうか。」

崔部会長「メールの配信という案だが、具体的にどういった内容か。」

前田副委員長「メールの配信というのは受けとる側にとっては助かるが、そうだとするとまずはメールアドレスを登録しなければいけない。まずはそこにハードルがあると思う。ほかに、代表者会議の応募案内は2年に1度、対象者全員に届くと思うが、それは活用できないか。メールの内容としては、テーマを決めて月に1、2回くらいの配信でよいのではないか。」

鈴木委員「かながわ国際交流財団でやっている INFO KANAGAWA というのがある。」

アリ委員「たくさんの人に登録してもらうためには、魅力的な情報がたくさんないといけない。」

鈴木委員「いろいろな人のニーズに応えるのには、限界があると思う。まずは、

基本的な情報でよいと思う。」

崔部会長「残りの審議時間も迫ってきたが、ほかに何かあるか。」

鈴木委員「防災マップをホテルで配布したらどうか。」

アリ委員「実際にウェルカムセットを見てみたい。」

劉委員「資料を置く場所についてだが、外国人が必ず行く場所の1つに<sup>にゅうこくかんりきょく</sup>入国管理局がある。候補にしてはどうか。」

崔部会長「そろそろ時間なので、このテーマについては、今日はここまでとしたい。

残りの時間で、<sup>はな</sup>次回の審議テーマについて話し合いたい。次回は、<sup>かんこうきやくむけ</sup>観光客向けの防災情報だ。何か資料のリクエストはあるか。」

アリ委員「川崎にどのくらいホテルがあるのかと、どのくらいの<sup>かんこうきやく</sup>観光客が泊まっているのかが知りたい。」

シロコラデュク委員「ホテルに限らず、民泊やA i r b n bに泊まっている<sup>ひと</sup>人の数もわかるとよい。」

崔部会長「<sup>かんこうきやく</sup>観光客が必要とする情報と<sup>ちいき</sup>地域に住んでいる<sup>がいこくじん</sup>外国人市民が必要とする情報には違いがあるか。」

シロコラデュク委員「<sup>かんこうきやく</sup>観光客の方が<sup>ちしき</sup>知識も<sup>けいけん</sup>経験もないと思う。」

前田副委員長「この間のオープン会議のときに、なぜ川崎市に住んでいる<sup>がいこくじん</sup>外国人市民ではなく、<sup>がいこくじんかんこうきやくむけ</sup>外国人観光客向けの<sup>ていげん</sup>提言をするのかということ<sup>い</sup>を言われた。」

崔部会長「時間になったので、今日の部会<sup>きょう</sup>はここまでとしたい。今日の<sup>いけん</sup>意見は<sup>ひきつづ</sup>引き続き検討していきたい。」

## 【教育・就労部会】

バテネフ委員「それでは、<sup>きょういく</sup>教育・<sup>しゅうろうぶかい</sup>就労部会を始める。まずは、<sup>ぜんかい</sup>前回の<sup>かいぎ</sup>会議の<sup>かくにん</sup>確認について、<sup>じむきょく</sup>事務局から<sup>ねが</sup>お願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明)

バテネフ委員「何か質問はあるか。(なし)それでは、今日の<sup>しんぎ</sup>審議テーマは、<sup>たぶんか</sup>多文化・<sup>こくさいりかいきょういく</sup>国際理解教育についてだ。<sup>じむきょく</sup>事務局から<sup>せつめい</sup>説明を<sup>ねが</sup>お願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料7、7-1に基づき説明)

バテネフ委員「何か質問はあるか。」

寺田委員「この調査は何歳くらいの子どもに聞いたものか。」

事務局高橋専門調査員「この調査は、<sup>こ</sup>子どもには<sup>ちよくせつ</sup>直接聞いていない。<sup>ほごしや</sup>保護者に聞いたものだ。」

スタント委員長「資料にあるフィリピンの文化についての授業は、さくら小学校とふれあい館で協力してやっているということか。」

事務局高橋専門調査員「その通りだ。」

ポソ委員「繰り返してやっているということは、評価されているのだろう。ほかの学校でもできるのではないか。」

金委員「フィリピンの文化についてなのは、フィリピンの子どもが多いからか。」

事務局高橋専門調査員「フィリピンだけではないが、フィリピンにつながる子どもが比較的多い。」

寺田委員「何かのアイデアがあるときに、どうすればそれを実行できるか。たとえば、PTAなどを通してできないか。」

チョ委員「PTAは、やることは大体決まっている。」

金委員「私は大田区で日本語指導をしているのだが、校長先生の理解がないとなかなか難しい。」

バテネフ委員「今の子どもを考えるとデジタル・コンテンツを有効に活用するとよいのではないか。今はみんなスマートフォンを持っている。それを活用したらよいのではないか。」

アニータ委員「もし何かやるのであれば、ほかの国で自分たちと同じ年齢の子どもたちが何をしているのか、どういう遊びをして、どういう音楽を聞いているのかといったところから始めるとよいのではないか。」

バテネフ委員「動画をつくるのもよいかもしれない。」

事務局高橋専門調査員「そういった映像資料は、ビデオ教材などすでにあると思う。映像を使うというアイデアはよいかもしれないが、それと市に映像をつくってくれという話はまた違ってくる。」

蔣委員「日本では、小学校も中学校もスマートフォンを学校に持っていくのは禁止だ。もし、ビデオを見るなら、給食の時間がよいかもしれない。」

ポソ委員「民族差別の解消ということで、やはりいじめの問題が大きいのかなと思う。そう考えたときに、大切なのは保護者の考えではないかと思う。多文化理解を子どもにいくら教えても、保護者がそれをわかっていないと意味がない。保護者への教育や啓発が必要ではないか。」

バテネフ委員「そろそろ時間なので、今日の審議はここまでとしたい。残りの時間で次回の審議テーマについての資料リクエストをしたい。次回のテーマは、就労支援だ。何かリクエストはあるか。」

寺田委員「一番苦労しているのは、配偶者などで日本に来たばかりで、日本語がわからない人だ。」

許委員「今、海外にいて日本に関心がある人への支援は可能か。」

事務局高橋専門調査員「それを提言にする理由は弱いと思う。」

寺田委員「たとえば、ハローワークもあると思うが、川崎市にどういった情報があるのか知りたい。」

アニータ委員「解雇されたり、仕事を辞めたりした人が次の仕事に就くまでに何か支援があるのか知りたい。」

チョ委員「自分で会社をつくりたい人のための支援について知りたい。」

寺田委員「正社員とか、パートとか、派遣社員とか、契約社員とかいろいろと種類があつてよくわからない。まとめて整理して欲しい。」

バテネフ委員「時間になったので、今日の部会はここまでとする。」

#### 【全体会】

スタント委員長「それでは、全体会を再開する。まずは、部会報告を教育・就労部会からお願いする。」

バテネフ委員「今日はマハバットさん[ウラコワ委員]が欠席なので、私から報告する。今日は多文化・国際理解教育について審議した。まずは、川崎市と横浜市の取組について説明を受けた。川崎市の特徴としては、いろいろな文化について理解するというスタンスで、人権を大切にしているというのがあった。それに対して、横浜市の場合は英語に特化しているというのが特徴だそうだ。また、民族文化講師ふれあい事業という取組があるそうだが、それ以外にも個別に先生が保護者をお願いをするなど、さまざまな取組があるそうだ。何か具体的な問題や課題があるというわけではなかったが、多文化・国際理解の取組を広げていくためには、講師の派遣という方法では現実的に厳しいのではないかとということで、動画のようなコンテンツを活用したらどうかという意見が出た。それと、子どもへの教育だけではなく、保護者への啓発も重要だという意見も出た。」

スタント委員長「何か質問はあるか。」

アリ委員「オープン会議でいじめのことが出ていた。」

バテネフ委員「今日はまだ何かの結論が出たわけではないので、引き続き検討していきたい。」

スタント委員長「ほかに何かあるか。（なし）それでは、続いて情報・広報部会からの報告をお願いします。」

崔部会長「今日は、企業や日本語学校等を通じた市の取組の広報・周知に関して話し合った。まずは、外国人市民が欲しいと思っている情報と市が外国人市民に知って欲しい情報にはギャップがあるということ意識するようになった。企業に関しては、数も多いので、現実的ではないということになった。日本語学校に関しては、市内に4か所あるそうだ。現状では、市の作成した情報は置いてないそうだが、依頼をすれば置いてくれるそうだ。ただ、ニーズがあるかというのははっきりしない。それと、区役所で配布しているウエルカムセットについて、確実に配布されているわけではないということもわかった。それに対しては、研修が必要なのではないかとこの意見が出た。ほかには、入国管理局と連携するといった意見も出た。」

スタント委員長「何か質問はあるか。（なし）では、今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡をお願いします。」

#### 【事務連絡】

- ・アンケートの提出について
- ・災害時多言語支援センター設置訓練について
- ・神奈川新聞の記事（委員長の紹介）の紹介

スタント委員長「以上で、今日の日程は終了だ。次回は2月24日日曜日、午後2時から、ここ国際交流センターで開催する。これで、2018年度第4回第1日の会議を終わりにする。お疲れ様でした。」